

国語科学習指導案

単元名「古典の世界について学んだことを生かして、竹取物語の魅力を伝えるポップを作ろう」

教材名「月を思う心」「竹取物語」〔学指要領：知(3)ア、思C(1)オ〕

令和〇年〇月〇日（〇） 第5校時 1階多目的ホール
昭和村立昭和中学校 1年〇組 〇名 指導者 〇〇 〇〇

I 単元の構想

1 単元の目標及び生徒の実態

	目 標	生徒の実態
知識及び技能	・音読に必要な文語のきまりを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむことができる。(3)ア	
思考力、判断力、表現力等	・文章を読んで理解したことに基いて、自分の考えを確かなものに行うことができる。C(1)オ	
学びに向かう力、人間性等	・言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとしている。	

2 評価規準

知識・技能	○音読に必要な文語のきまりを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。
思考・判断・表現	○「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基いて、自分の考えを確かなものに行っている。
主体的に学習に取り組む態度	○進んで文章を読んで理解したことに基きながら自分の考えを確かにし、見通しをもって古典作品の魅力を伝えるポップ作りに取り組んでいる。

3 指導及び評価、ICT 活用の計画 ※別紙参照

4 言語活動の価値

現存する最古の物語とされ、人々に長く親しまれてきた「竹取物語」には、作品の神秘性、「別れ」や「無常」といった物語のテーマ性、多様な登場人物が織りなす物語性など、多様な魅力がある。本単元では、それらの魅力を、学習者ごとに異なる切り口でポップに表し、小学校高学年に伝えるという言語活動を設定している。小学校高学年に「竹取物語」を紹介するという設定は、相手意識や理解する目的意識を明確にし、生徒が作品を読む必要感を高めることになる。また、生徒自らの関心に応じ、紹介する魅力を選べることは、作品への関心を高めることになり、古典に親しみ、古典を進んで読もうとする態度の育成へとつながる。

ポップは少ない文量で読み手に考えを伝える手段であり、魅力を表現するためには、作品を何度も読み返し、理解した上で、古語やキャッチコピーを用いて魅力を表現する必要がある。そのため、作品を読んで理解したことを基に考えを確かなものにする力を育てることができる。

さらに、生徒はポップを作成する活動を通して、表現した考えを友達と共有し、ポップの内容を改めたり、新たに内容を付け足したりすることを繰り返す。そのため、友達との考え方や感じ方の違いに気付き、互いに言葉を用いて思いや考えを伝え合おうとする態度の育成につながる。

II 本時の学習（5／6）

- ねらい 「竹取物語」を繰り返し読み、ポップに表す竹取物語の魅力について友達と聴き合うことを通して、自らが考える竹取物語の魅力について、考えを確かなものにすることができる。

2 展 開

主な学習活動 予想される生徒の反応〔S〕	○指導上の留意点 ◆評価項目（観点）
1 本時のめあてをつかむ。（5分） S：完成に近付いているけれど、月からの使者が来る場面の面白さが、SFに興味がある小学生に伝わる書き方になっているかな。 ＜めあて＞ ポップに表した魅力と紹介する相手とのつながりを見直して、竹取物語の魅力を聴き合おう。	○魅力を伝えるポップと相手とのつながりについての問題意識を持てるように、魅力と伝えたい相手とのつながりが不十分なポップを例示し、問題点を問いかける。 ○これまでの単元の学習を振り返り、本時の学習への見通しを立てられるように、単元内の全時間の振り返りを一枚にまとめられる形式の振り返りカードを用意する。
2 ポップの改善に向けて、本文や資料を繰り返し読み、竹取物語の魅力を聴き合う。（35分） S：この「天の羽衣」って恐ろしい道具だけれど、考えようによっては便利とも言えるね。嫌なことがあっても忘れられる道具が出てくるなんて、「竹取物語」って、SFだね。 S：確かに友達の言うように、「翁を、いとほし、かなしと思しつことも失せぬ。」という部分が怖いよね。それまで一緒にいたかぐや姫の態度が、急に冷たくなって、表情も無くなって、翁もがっかりだったろうね。 S：そうか、翁は急に表情が無くなるかぐや姫の様子を目の前で見ていたのだね。翁にしてみれば、それまで笑ったり、泣いたりしていたかぐや姫が、急に変わってしまったのだから、怖いとは違う気持ちかな。もう一度読んで想像してみよう。 S：前の場面であんなにかわいがっていたかぐや姫が別人のように変わってしまって、しかもいなくなってしまうって辛いね。切ない話が読みたい子におすすめした方がいいかな。 S：キャッチコピーを、「すべての思い出が消えてしまう・・・」としてみたよ。切ない話が読みたい小学生に響くかな。	○竹取物語の魅力を多面的に捉えられるように、教科書以外の「竹取物語」に関する資料を配布し、参照できる環境を整えておく。 ○多様な意見を基にしたポップの改善を進められるように、選んだ魅力が異なる生徒同士の座席を編成し、必要に応じて交流を促す。 ○竹取物語の魅力についての考えを繰り返し問い直せるように、友達に魅力の根拠を問いかけたり、本文や資料を示しながら代案を伝えたりしている生徒を称賛する。 ○複数の表現を根拠に魅力についての考えを捉えられるように、取り上げている場面の様子と前後の場面の様子の違いを問いかける。 ○竹取物語の魅力についての考えが明確にならない生徒に対しては、伝えたい魅力と紹介したい相手とのつながりに目が向くように、ポップに用いるキャッチコピーの理由を問いかける。 ◆評価項目（思●） 話合いの様子やロイロノートの記述内容から「本文や資料を読んで理解したことを基に、自分が選んだ魅力についての考えを確かなものにしているか」を評価する。
3 本時の学習内容の振り返りをする。（10分） S：友達と考えを聴き合ったら、竹取物語の魅力についての考え方が少し変わったよ。 ＜振り返り＞ S：「天の羽衣」が出てくる場面を読んで、最初は怖い道具だなと思っていたけれど、この道具があったからこそ、もう二度と気持ちが通わない翁たちとかぐや姫との別れがより辛いものになったのだなと感じ、この切なさを小学生には伝えたいと思った。次回はその切なさが伝わるキャッチコピーを決めて、ポップを完成させたい。友達が作ったポップを見て、いろいろな魅力を知るのが楽しみだ。	○次時の活動や学習のめあてにつなげることができるように、今後の見通しを持てている生徒の振り返りを称賛する。

(別紙)

3 指導及び評価、ICT 活用の計画（全 6 時間：本時第 5 時）※指導に生かす評価○、評定に用いる評価●

時	学習活動	知	思	態
1	・「月を思う心」「竹取物語」を読み、初発の感想を書く。	○		
2	・「竹取物語」を通読し、昔話「かぐや姫」と関連させながら単元の課題を設定する。 ・「竹取物語」のあらすじと古文特有の表現や仮名遣いについて知る。(a) 単元の課題 古典の物語を読んで理解したことから、自分の考えを明確にして、古典を知らない小学校高学年のみんなに、竹取物語の魅力を伝えるポップを作ろう。 ・単元の課題を基に、学習計画を立てる。			○
3	・竹取物語の魅力を伝えるための情報を収集し、ポップの案を作成する。	●		
4	・伝えたい竹取物語の魅力について友達と聴き合い、ポップを作成する。		○	
5	・「竹取物語」を繰り返し読み、ポップに表す竹取物語の魅力について友達と聴き合う。		●	
6	・竹取物語の魅力を伝えるポップを完成させ、紹介し合う。			●

* 活用するコンテンツ等：(a)

おはなしのくにクラシック 竹取物語（小学 3～6 年）

https://www2.nhk.or.jp/school/watch/bangumi/?das_id=D0005150082_00000

竹取物語（中学・高校）

https://www2.nhk.or.jp/school/watch/bangumi/?das_id=D0005150061_00000